

解説「いちばん好きな色は“ピンク”」ジュ・パンス、高文研、1993

娘が一番好きな色はピンクです。「ピンクって何の色？」「桜の色。桃の色。夕焼けの色。花の色」と答えが返ってきました。娘にとっては馴染みの深い、自然の中の美しい、感動の色です。

4月号のレオタード、5、6、7月号の服、家、花などの隣には、必ず別の色（黄青黒等）があって、ピンクが一層目立ちます。日本人が色を重ねながら“わび・さび”に通じる深い色を好むとは対照的です。

娘の洋服はおもに寒色系の地味な色で、できるだけシンプルな形のものを選ぶようにしてきました。目立たせたくないというのが理由ですが、そのことが逆に、暖色系の明るい色にあこがれたりする娘の気持ちを増大させたのかしらと思います。

ちなみにピンクにつぐ好きな色の順番は、赤・黄・オレンジだそうです。先日も20本の絵の具を買い足したところ、11本はこの4色のバリエーションで占められていました。

描きたい対象や好きな色を筆に載せ、感動を塗りこめながら素直に仕上げた絵には、計算したものにはない豊かさや鋭さや開放感があります。

娘の絵の前で多くの方がたが忘れ物を発見したときのような、小さな驚きと喜びを表します。屈折していない、あるいは開けっ広げとでも言うのでしょうか、娘の瑞々しい感性が伝わっているのかなと思われる瞬間です。